



心も体も元気な岡村っ子

おもいやりをもち、
かがやく自分を求めて、
むちゅうになって共に学び
みらいを創っていく子



横浜市立岡村小学校・学校だより R5.8.31

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okamura/>



月影

校長 川村 真弘

今夏、世界の一部は地球温暖化に収まらず「地球沸騰化」という言葉まで顕現するほどの猛暑と甚大な被害に見舞われた。気象庁の検討会は歴代と比較しても圧倒的な高温で異常気象だと結論づけた。しばらくは暑さが続くようだが、岡村小は熱中症予防対策も災害対策も新型コロナやインフルエンザ感染症予防対策等も常に視座に於いて子どもたちの健康と安全を最優先に守り、9月も本校が研究テーマとする「学習意欲」を高めて、勉学に励みたいと思う。



今月の満月は中秋の名月。「月々に月見る月は多けれど月見る月はこの月の月」である。

以前も記したが、私は月を眺めると、故郷の思い出に亡父を重ね、深夜2人で出掛けたイカ釣りのことやその時の深閑、闇中の海辺の風景を必ず思い出す。

暗闇の海に灯る釣りの仕掛けのライトは海に浮かび、波に揺れ、儚げで幻想的だ。微かな潮香、繰り返す波音、凹凸の激しい磯辺の道は狭く不安定で、海を前に背後は聳える岸壁だから、夜のこの場所は際どく危うい。が、実に昼は海水浴場なので趣も景色も全く違う。同じ場所が夜と昼。月光と日光の下ではまるで様相を変えるのだ。

やがて、そそり立つ岸壁の上に月が出てくる。暗闇は月光で少しずつ海と空の境界線を明らかにして、暗闇にまるで水墨画が浮かび上がるように変貌する。同じ場所も風景も、陽光の下、月光の下では違って見えることが感慨深い。

私たちの考え方も同じことなのだと思う。見方を変え、立場を変え、あるいは時や心境を変え、同じことが違って見えてくるはずだ。子どもたちには、多様に生きてほしい。陽光ばかりでなく、時に月影で違う見方の出来る感性を磨き、今とは違う考え方に気付いてほしい。そう思う、9月、初秋である。



今夏の台風等、想定をこえた自然災害の影響で甚大な被害により亡くなられた方々へ衷心より深くご冥福をお祈りいたします。被災された皆様に心よりお見舞申し上げます。岡村小学校は、子ども、保護者と協働して引き続き危機管理に邁進いたします。

横浜市立岡村小学校教職員・PTA 一同